

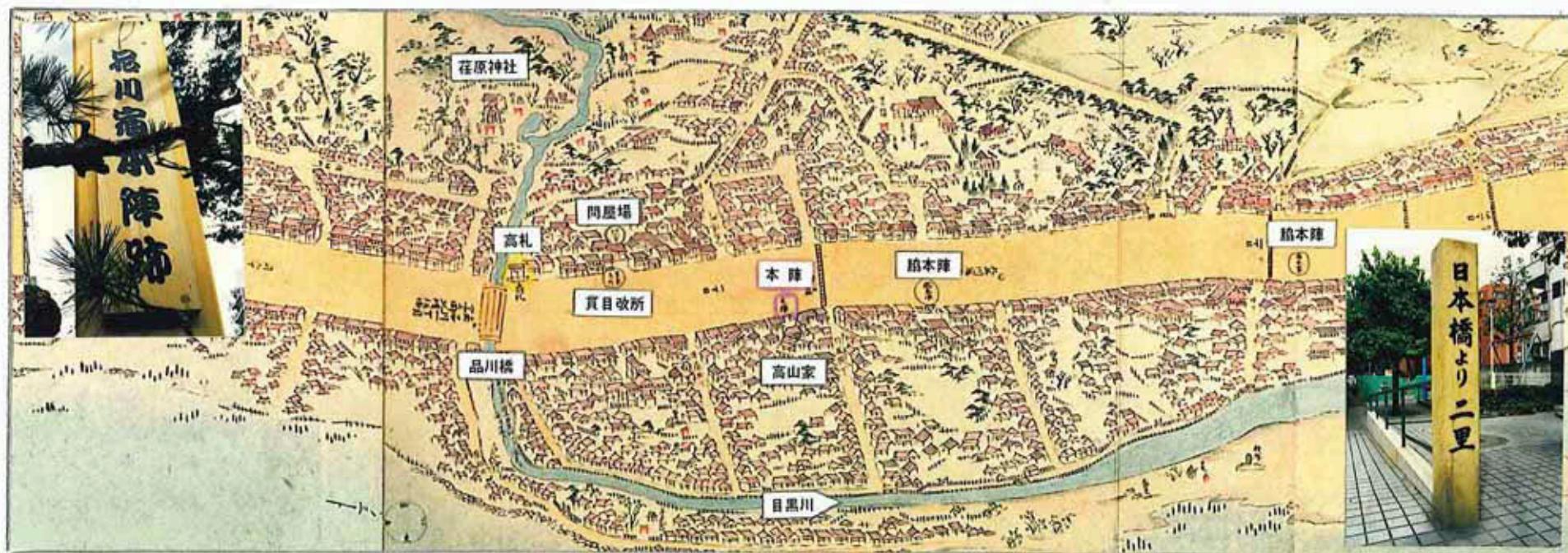
江戸を出発して最初の宿で「江戸四宿」の一つ



広重の東海道五十三次の品川宿



品川橋は目黒川に架かる橋で、北と南の宿の境にあるので
境橋とも中の橋ともいう。

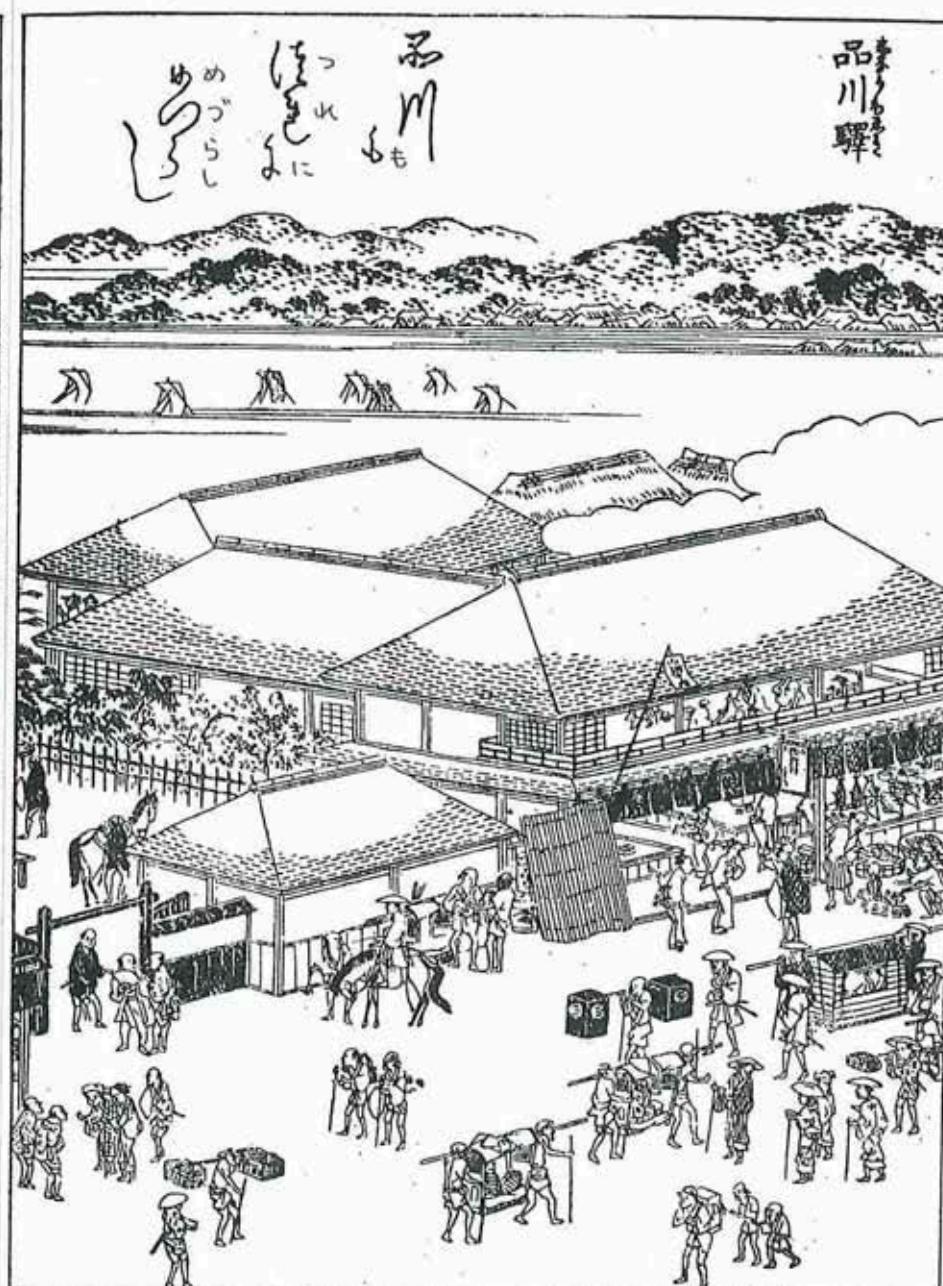
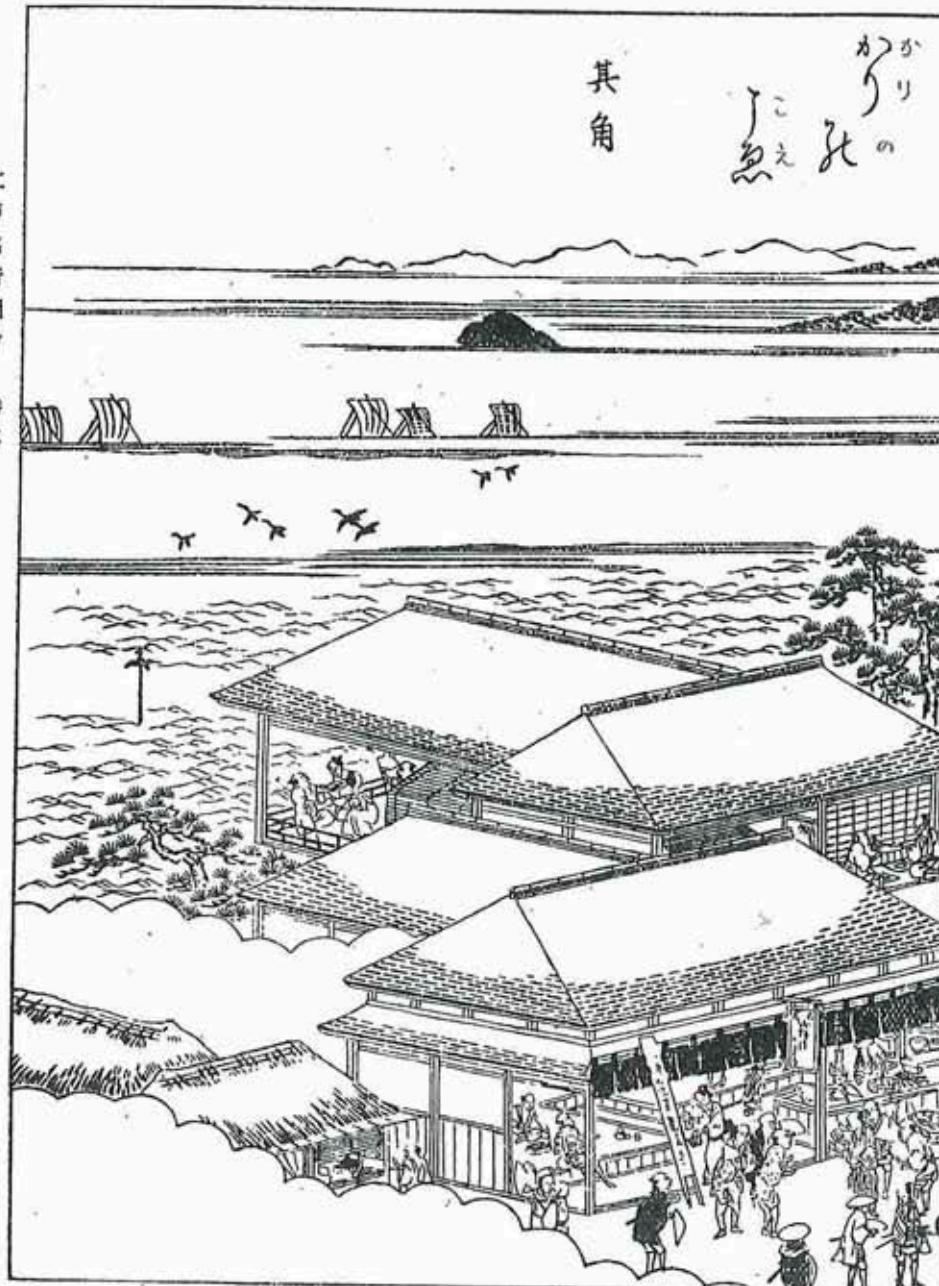


『東海道分間延絵図』寛政年間（1789～1801）

天保14年（1843）の頃の宿内人口6890人
総家数1561軒、旅籠93軒。

東海道品川宿

海が近く魚類を店先に並べている。多くの旅人達が行きかいにぎわっている。



品川驛
江府の喉口にして、東海道五十三驛の首なり。
ひて、貴船の社の側を流るゝ川を堺とす。
數百戸軒端を連ね、常に賑はしく、往來の旅客給釋として絶えず。
日本橋より二里、南北と分つ。東海寺の南に傍
り、常々舟を泊らしめづらし。
品川驛

品川区大井 六の九の十七

II 地名の元になった井戸「大井」が今でもある II



「大井」の地名の由来となった井戸。今でも少しだが水が湧いている。



絵に描かれている大いちょうが今も同じ位置にある。高さ30m・樹齢800年とある。



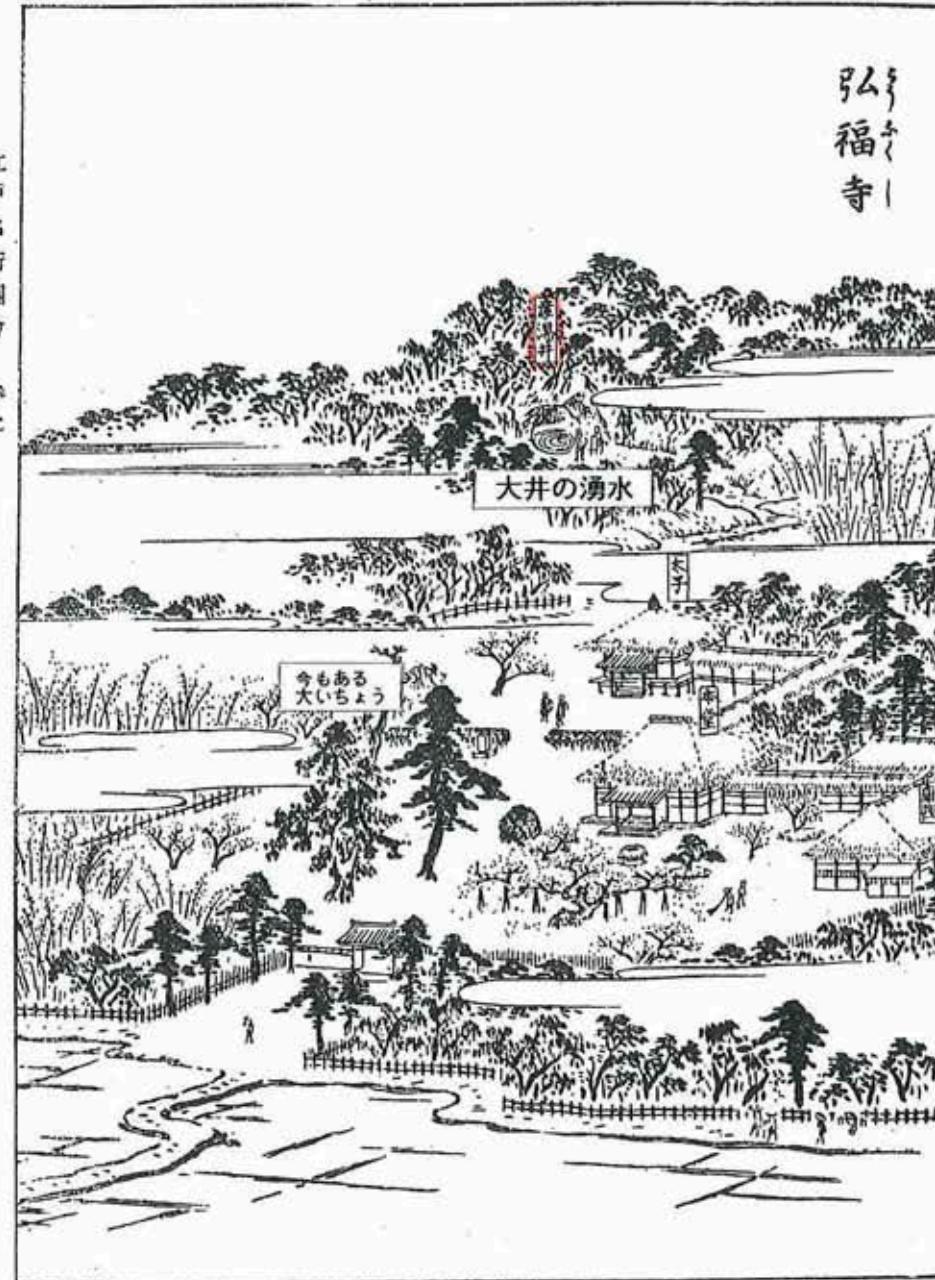
「大井」の由来の説明板。



弘福寺

(光)

奈良時代の延暦元年（782）の創建。元は天台宗。鎌倉時代に了海上人が光福寺と改め淨土真宗とした。



大井

大井山弘福寺

了海上人產生湯井
寺の後園にあり。少しばかりの岳の下にて横穴の泉なり。横へ入る事深くして、
はかりしらずといふ。又當寺に大井といふもあり。邑名を大井といふも此井より起るとなり。



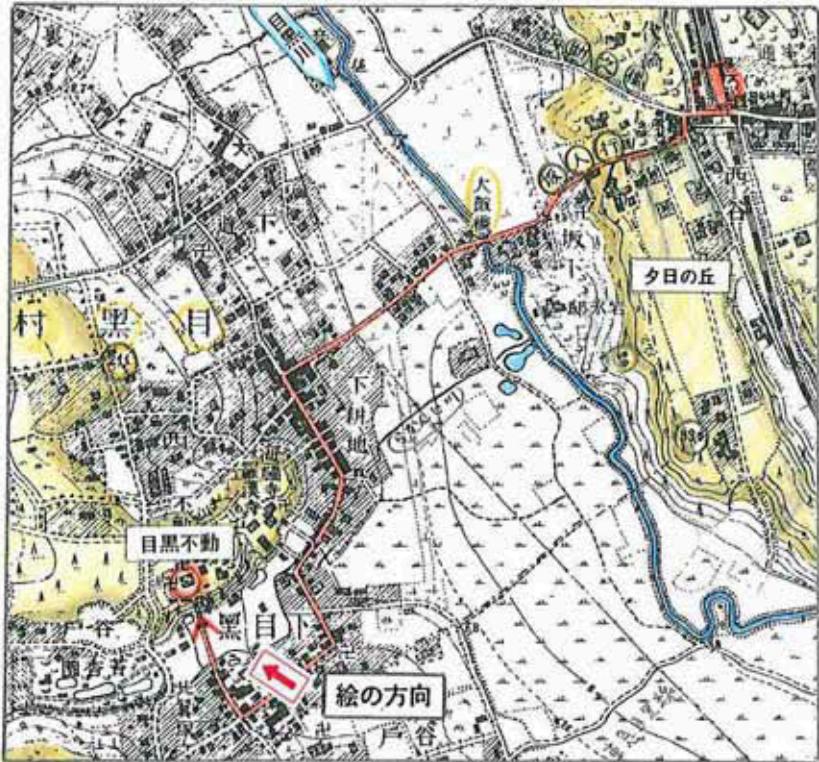
目黒不動堂

目黒区下目黒 三の二十一の二十六

II 正式名は泰觀山瀧泉寺という天台宗の寺 II

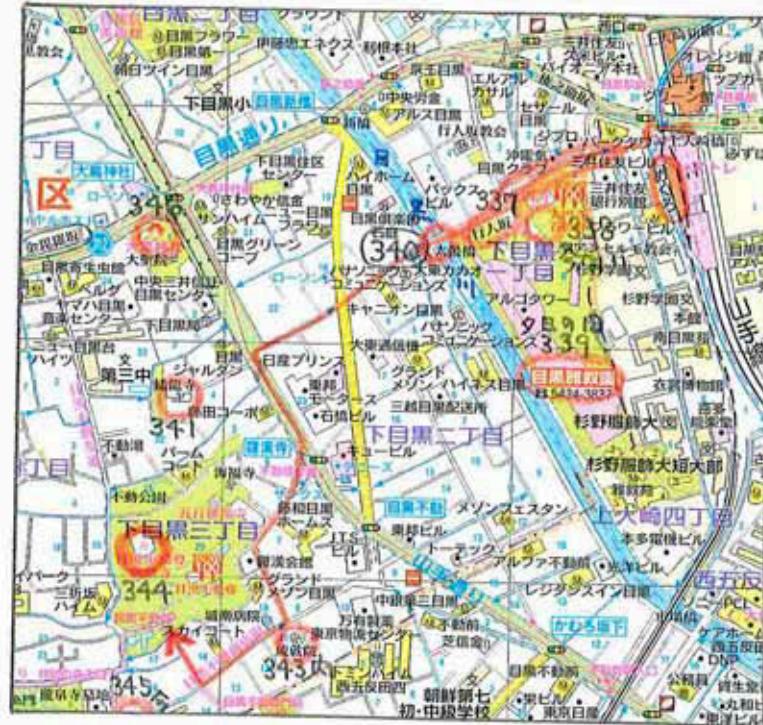


獨鉢の瀧。ここは東京の名湧水57選の1つの湧水地。「獨鉢」とは仏具の杖のこと。



明治42年の頃の周辺の地形

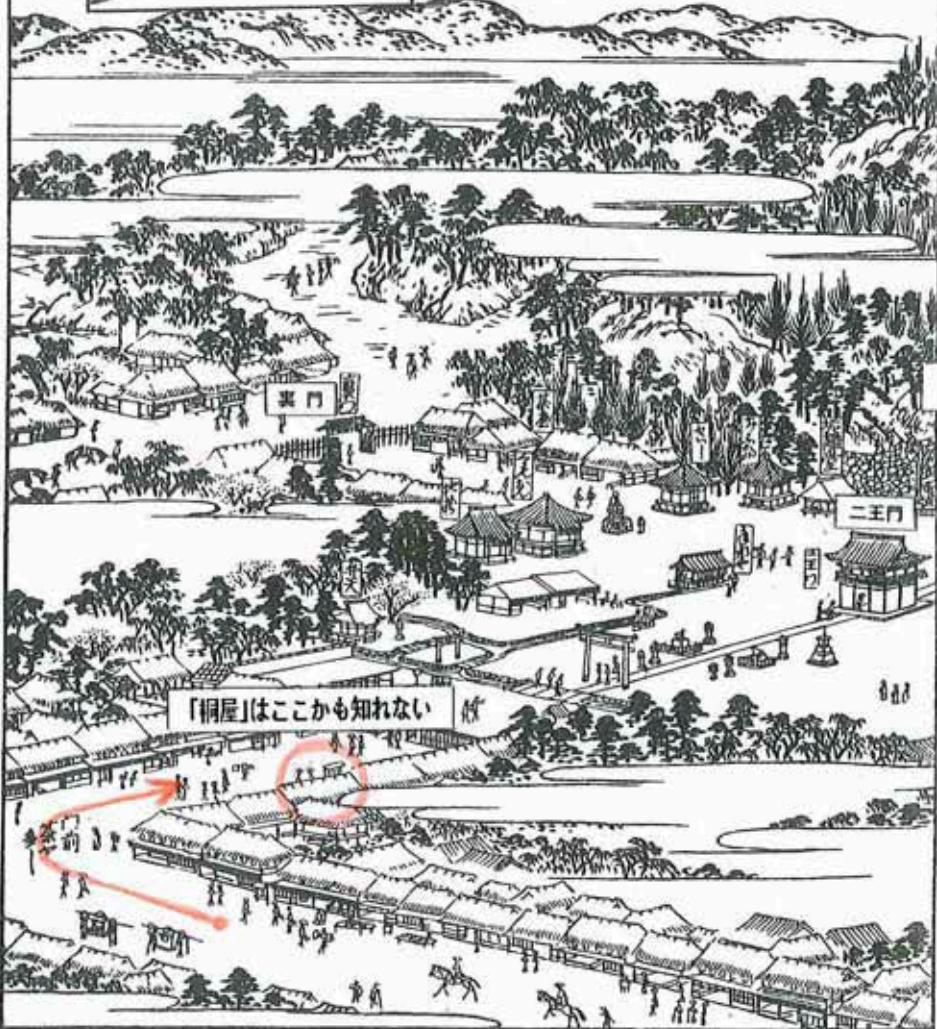
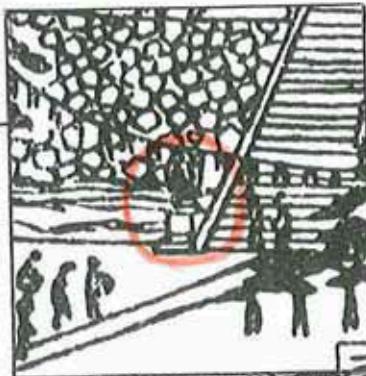
江戸城を守る五色不動の筆頭。今の本堂他は戦後再建されたもの。



目黒不動堂

縁起書によると、創建は平安初期の大同3年（808）と古く、元和元年（1615）焼失したが寛永11年（1634）3代将軍家光の助力で本堂他を再建した。

△もある
不動明王の像



目黒不動堂

泰觀山龍泉寺と號す。

天台宗にして、東觀山に屬せり。詣人をいこはしむ。

栗餅

飴

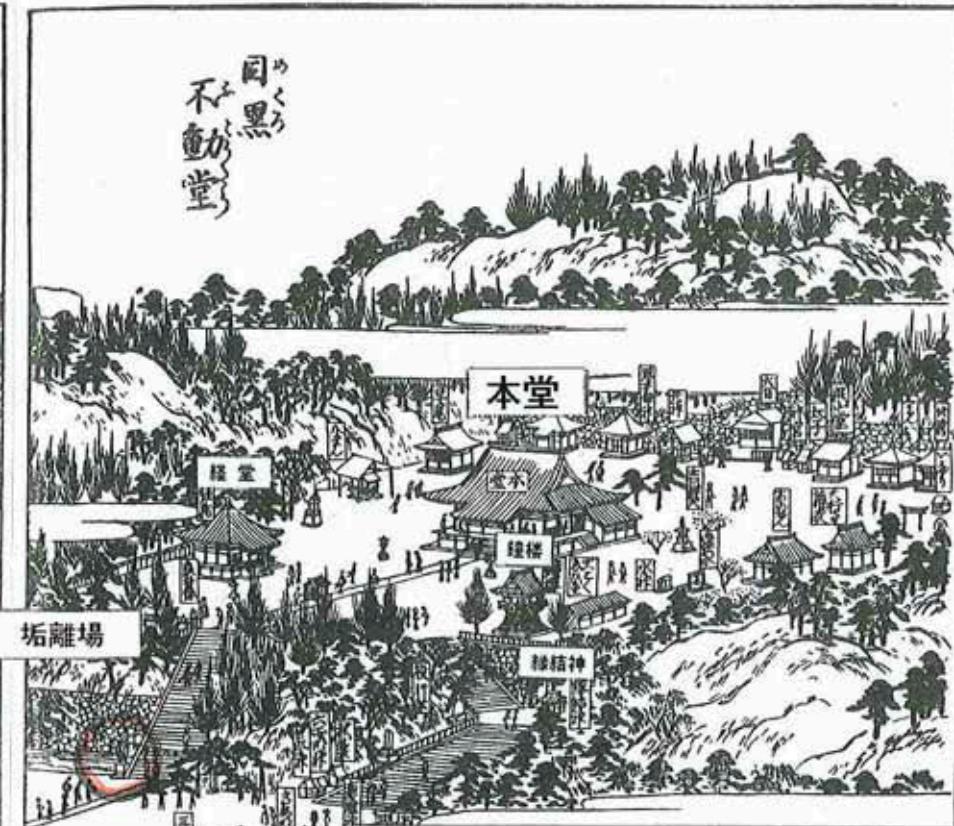
および餅花の類

を鬻ぐ家多し。

遙に都下を離るゝといへども、

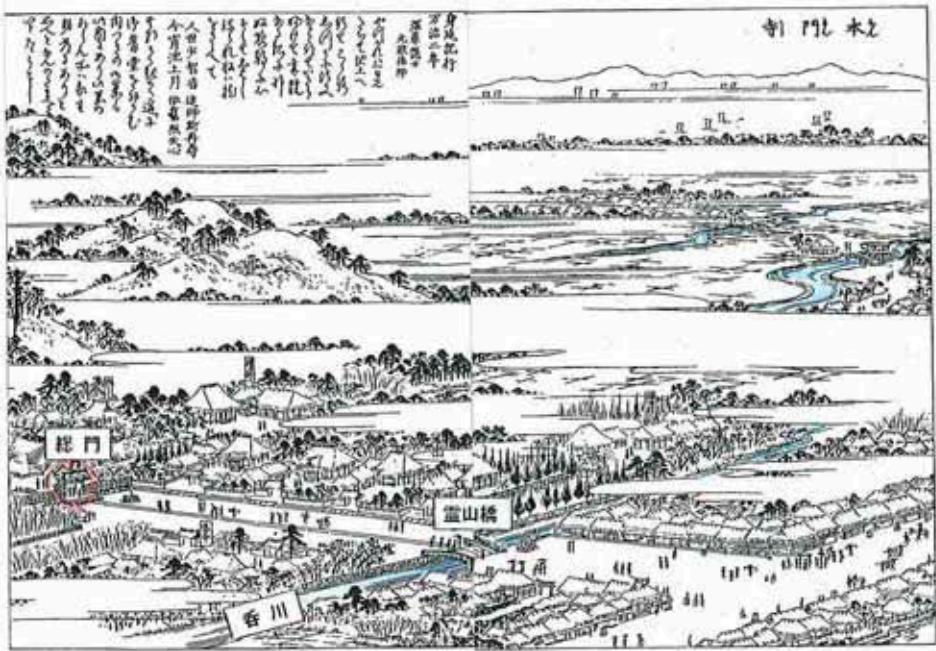
詣人常

に絶えず。



名物目黒飴の「桐屋」の店先。伸ばした棒状の飴を包丁で切って袋に入れて売っている。

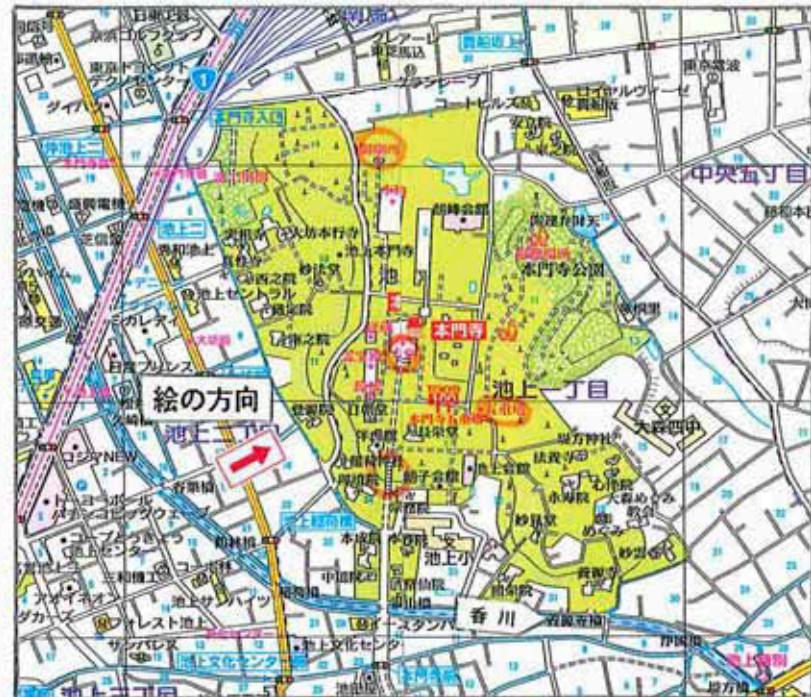
II 日蓮宗の大本山で日蓮の終焉地 II



本堂は戦災で焼失し、戦後再建された。

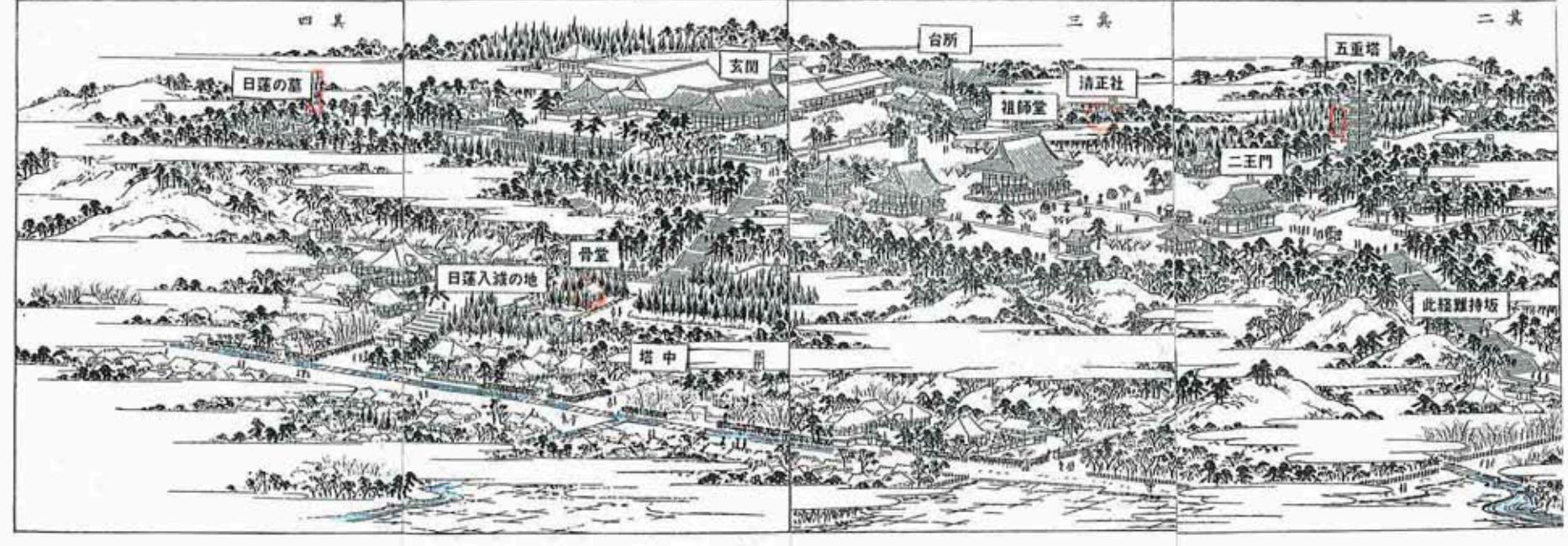


本門寺周辺の地形。明治 20 年。



長榮山本門寺

甲州身延山・總州正中山。當山、以上三頭といふ。是清澄なり、轉法輪は身延なり、入涅槃は池上なり云々。『延山圓經』に云く、高祖の塵世や生るゝ所は小淡なり、得道則宗祖大士を以て開山祖とす。



身延山久遠寺・下総中山の法華經寺とともに三頭の1つ。全国に末寺が200寺あり、敷地は6万9千坪ある。



加藤清政が寄進した此經難持坂の石段。96段ある。



五重塔は慶長12年（1607）建立。重要文化財。

鎌倉時代中期の建治2年（1276）日蓮が創建。日蓮の終焉の地で、元は鎌倉幕府に仕え日蓮宗の信者だった名族の池上宗仲の館を寺に寄進した。



總門は元禄年間（1688～1704）の建立。

大田区大森・蒲田

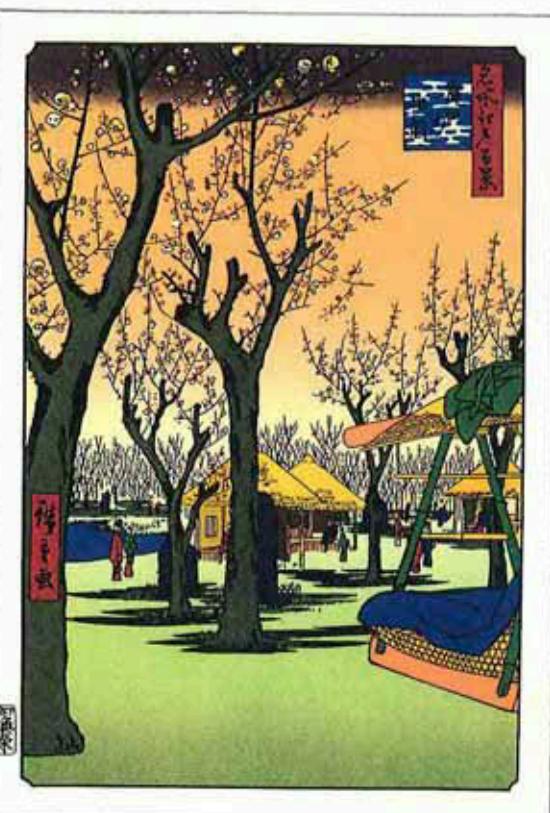
〔草津が本家の旅の常備薬を売る店が東海道沿いに3軒あった〕



「和中散」を売る山本久三郎の梅の庭園。



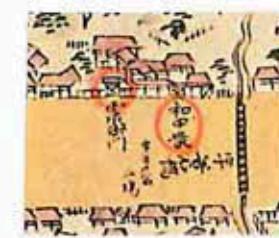
京急の駅にも梅屋敷がある。



広重の『名所江戸百景』の蒲田の梅園



江戸寄りの長左衛門の店

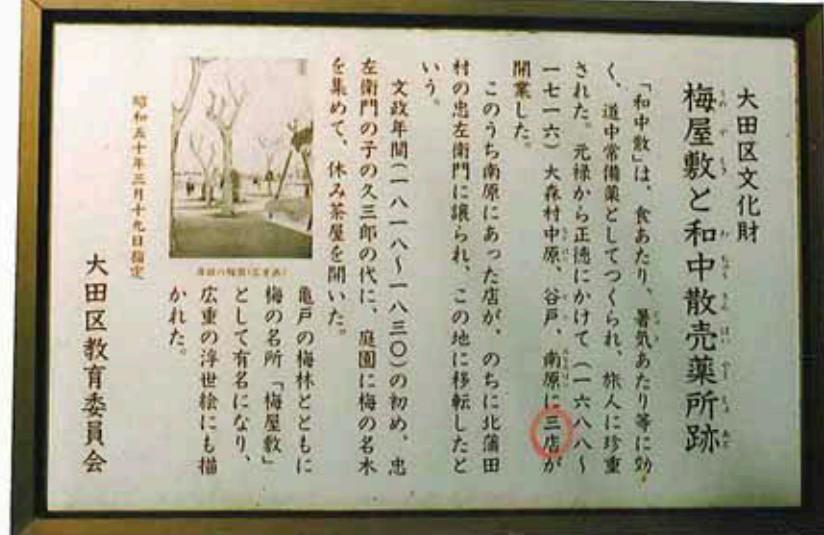


御成門のある忠次郎の店



南の久三郎の店で裏に庭の開いが見える

『東海道分間延絵図』



昭和五十年三月十九日指定
梅屋敷と和中散壳薬所跡

「和中散」は、食あたり、暑気あたり等に効く、道中常備薬としてつくられ、旅人に珍重された。元禄から正徳にかけて（一六八一～一七一六）大森村中原、谷戸、南原に三店が開業した。このうち南原にあつた店が、のちに北蒲田村の忠左衛門に譲られ、この地に移転したところ、忠左衛門に譲られ、この地に移転したところ、忠左衛門の子の久三郎の代に、庭園に梅の名木を集めて、休み茶屋を開いた。龜戸の梅林とともに梅の名所「梅屋敷」として有名になり、広重の浮世絵にも描かれた。

大田区教育委員会

大森

蒲田

梅

蒲田

邑

あり。

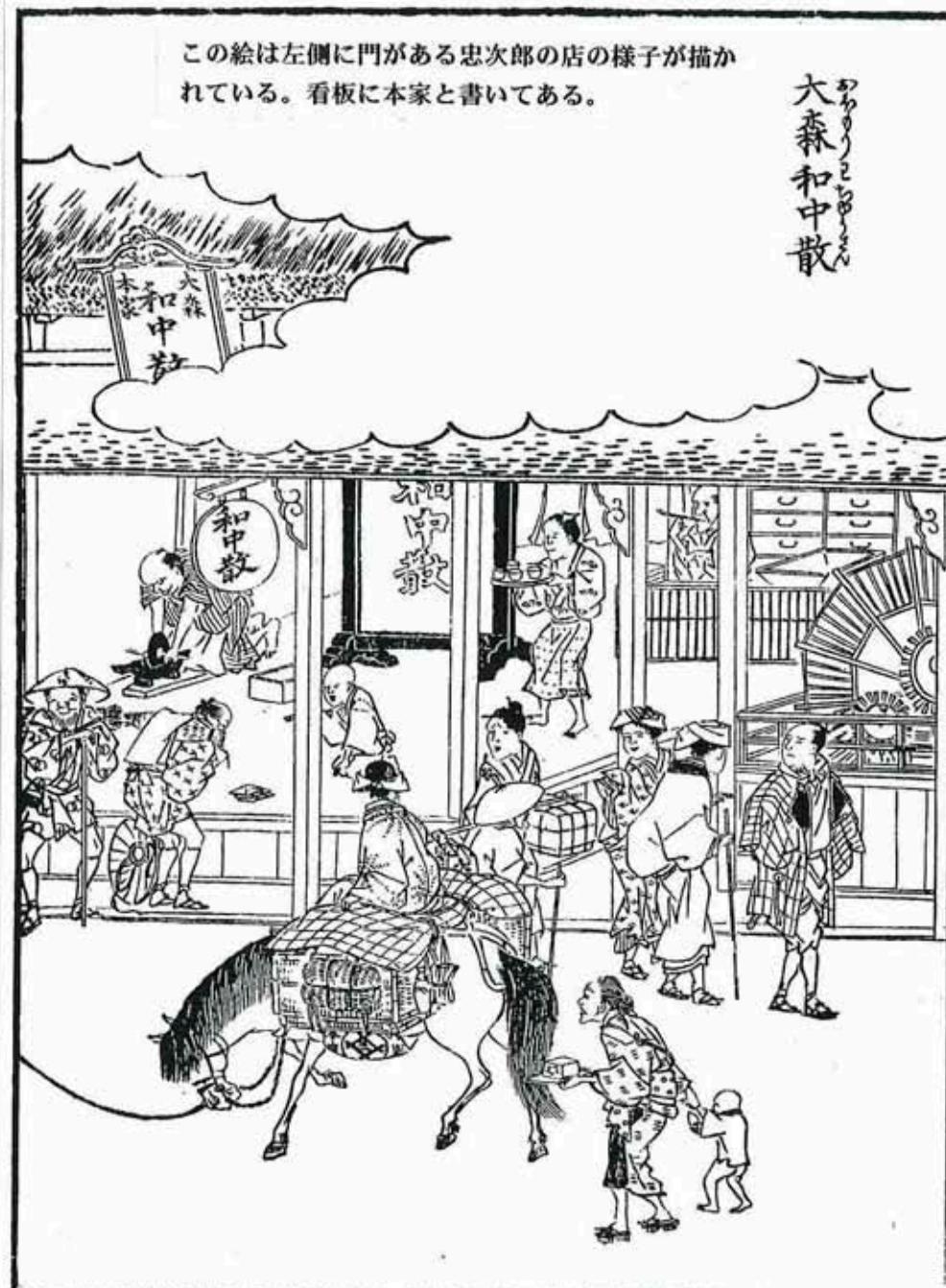
此地の民家は、前庭後園共に悉く梅樹を栽ゑて、五月の頃其實を探りて都下に鬻ぐ。されば二月の花盛には、幽香を探り遊ぶ人少なからず。

「和中散」を売る店は、元禄から正徳の頃（1688～1716）ここに3店出来、街道の西側に店を開いた。



この絵は左側に門がある忠次郎の店の様子が描かれている。看板に本家と書いてある。

大森
和中散

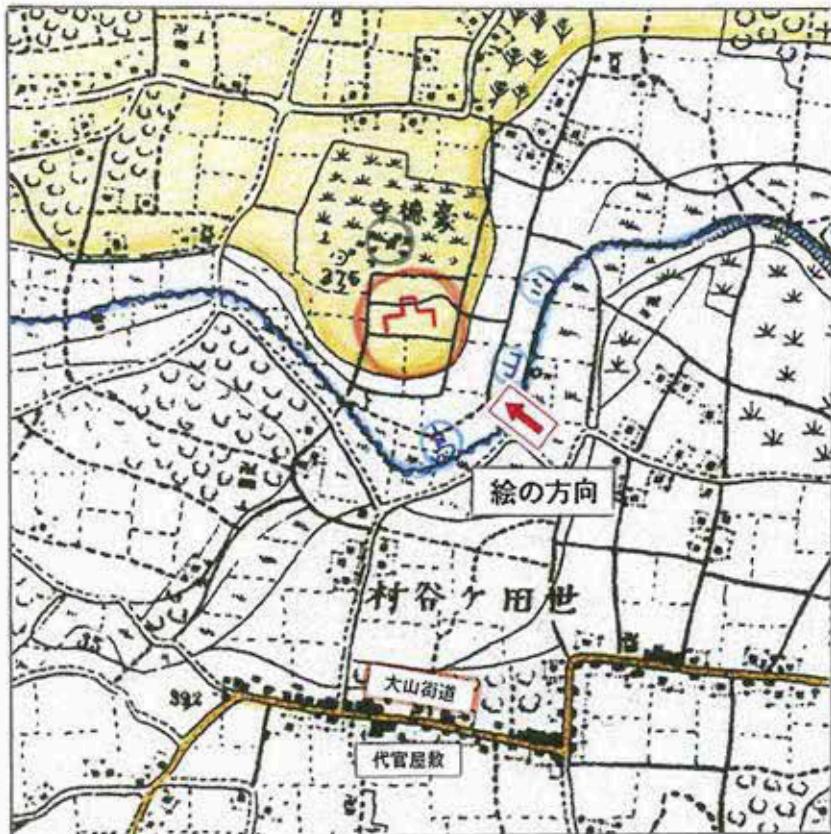


大溪山豪徳禪寺

||吉良氏八代一百一十余年から伊井家へと引き継がれた旧跡地||



吉良氏の世田谷城の外観。手前は目黒川上流の烏山川。



明治前期の頃の頃の周辺図



奥の方が本堂で延宝5年（1677）の建立。



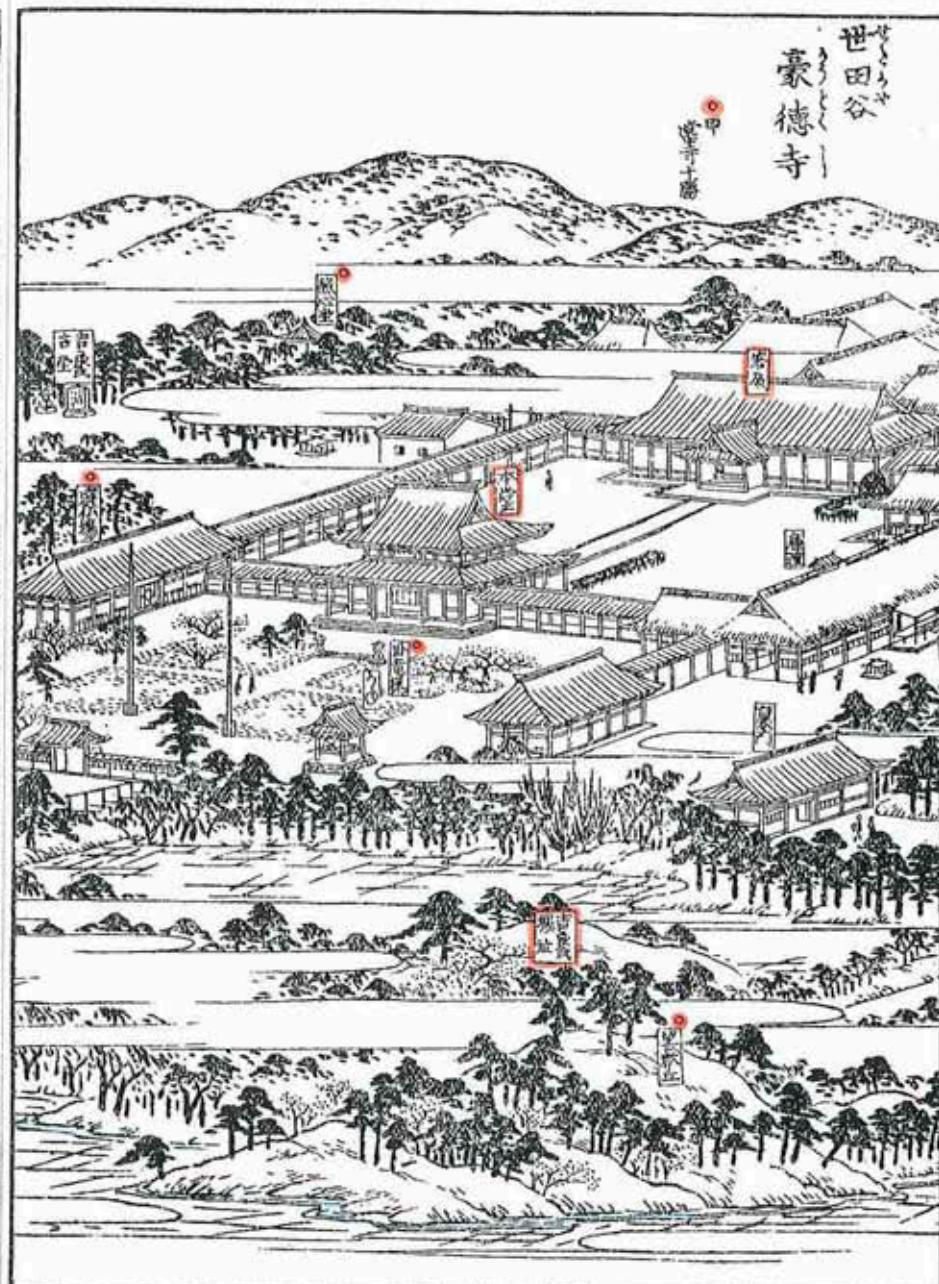
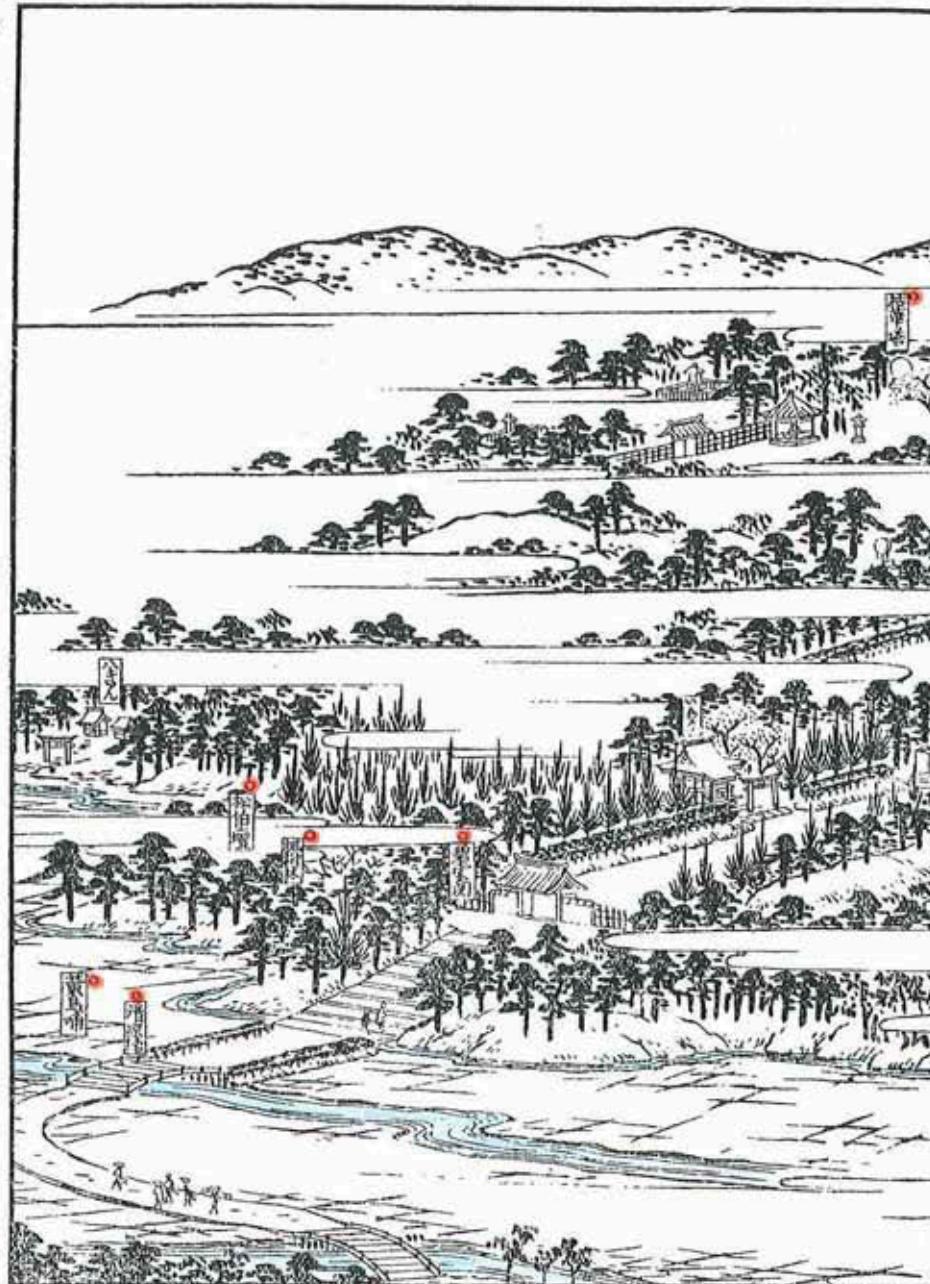
豪徳寺周辺の吉良城下町の図。南を大山街道が通る。

城は室町時代前期の貞治5年（1366）の築城。
文明12年（1480）吉良政忠が小庵を建てたのが寺
の始まり。ここに吉良氏の館があった。
天正18年（1590）廃城。8代220年程続いた。

豪徳禪寺

寛永10年（1633）吉良氏没落のあと、彦根藩主井伊
直孝がこの地を拝領しここを菩提寺とした。
天正6年（1578）からというボロ市は今でも続いている。
「招き猫」の話も有名。

大溪山豪徳禪寺
常盤橋より五町計西の方にあり。曹洞派の禪刹にして、江戸高輪の泉岳寺に属す。
當寺は文明年間、吉良家創建の精舎にして、舊は弘徳庵と號す。
豪徳寺構の内、右の方に續きたる地を云ふ。今は井伊家の林となれり。



●印は豪徳寺十景

II 甲州街道の玉川上水に架かっていた橋 II

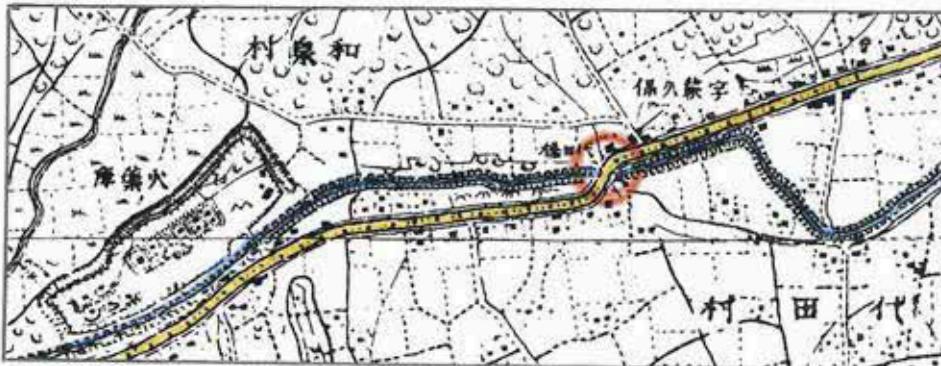
甲州街道の杉並区と世田谷区の区境



京王線の駅の名だけに残っている。



江戸時代の様子。当時は石橋で幅三間（5.4m）あつたが土で覆われ、北側には制札板が置かれていた。



明治前期の頃の甲州街道。明大の所は火薬庫があった。



国道20号線の代田橋の陸橋上から見る。右奥が東放学園で道の手前の方へ流れていた。昔はS字に曲がっていた。



代田橋

(世田谷区) 開業: 大正二年(一九一三)四月一日

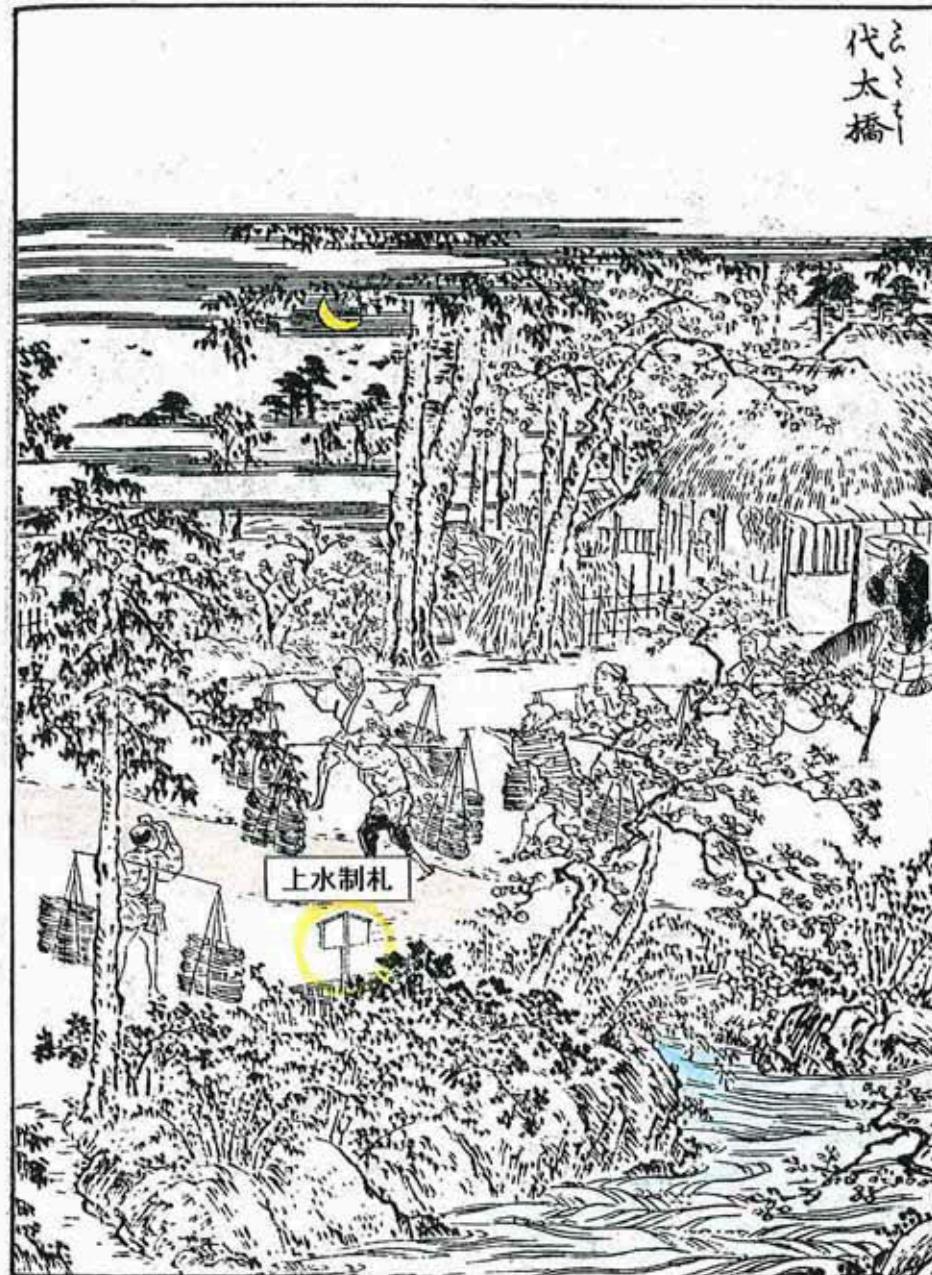
京王線

代田橋(だいたばし) 昔は甲州街道の和泉町(杉並区)より対岸の世田谷に通ずる旧玉川上水に架けられた橋であったが、今は水脈が変わり、地名のほうが知られる。江戸時代の『紫の一本』に「だいたばしが掛たる橋のよし云伝ふる——」とある。これは大太法師などと称される全国的に見られる巨人伝説の一つで、ほかにも東京近郊に伝説が語られるが、日本古来の民俗信仰に結びついたものであろう。

巨人伝説
代田橋の駅名は、大正二年(一九一三)の開業以来変わっていない。この駅名は、かつて近くの甲州街道にあった代田橋の名にちなむ。この橋の名は、日本各地に流布している伝説上の巨人、ダイタボッヂ(ダイダボッヂ、ダイラボッヂ)に由来する。

ダイタボッヂは、ツングース系のオロッコ語で、Dai(大きな), nare(人), hagdu(穴居)という北方系の説話に由来し、大太法師とも書く(三田義春編著『世田谷の地名』)。ダイタボッヂは怪力で、「富士山を一夜でつくりあげた」「櫻名山に腰をかけ利根川で足を洗った」「足跡が池になつた」などの伝説を持つ。江戸時代の句に、「不二山へ大太ぼっちはけつまづき」(柳多留)とある(『日本国語大辞典』小学館)。

『駅名で読む江戸・東京』



明け方、とれた鮎を内藤新宿の鮎問屋「つたや」へ運んだ。

明治20年頃まではあったという。制札板が下にあるので玉川上水の北側から見た絵。

『江戸東京地名事典』

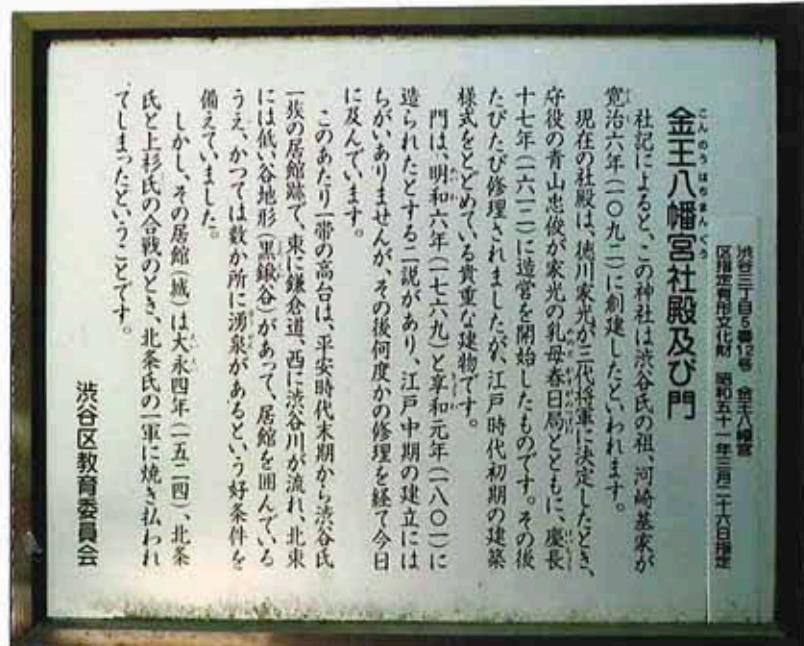
代太橋
甲州街道萩窪の立場より三町あまり先の方、松原・赤堤・泉・廻・代太等の五箇村入合の辻にありて、曲折する所の道路を横切りて流るゝ小川に架す。此所迄は道より左に添ひて流る。橋より右に添ひて流れ。橋下にて水流、左右に替れり。橋上に土を覆ふ。故に其形頗れず。此橋下を流るゝは多磨川の上水なり。

67 渋谷八幡宮 渋谷区渋谷 三の五の十一

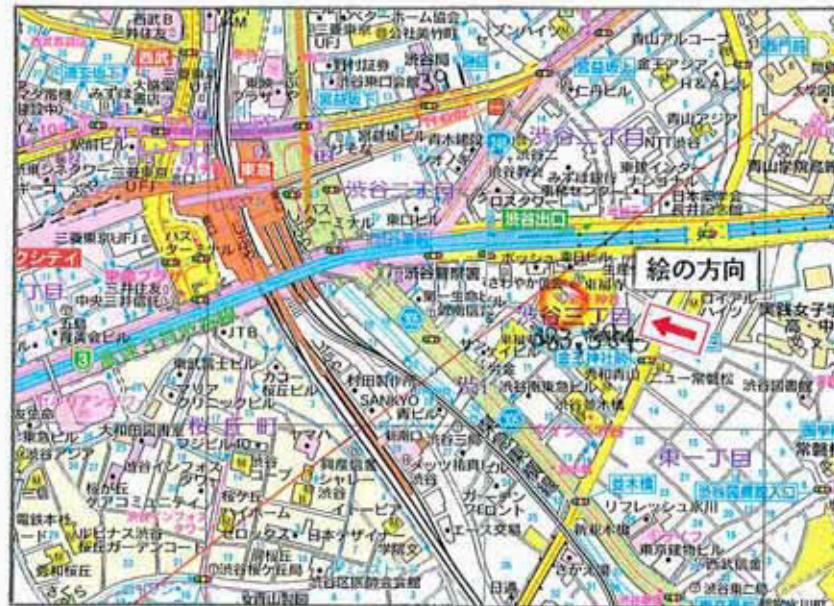
II 渋谷にも城があった II



金王丸影堂。木像が安置されているという。



平安時代後期の寛治6年(1092)源義家が後三年合戦のあと戰勝を祝って八幡宮を勧請したという説、他ある。
社殿は江戸初期のもの。



- ① 渋谷区渋谷三丁目、金王八幡社
② 金王丸城
③ 渋谷氏
④ 丘城
⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ 「江戸名所圖会」『新編武藏國風土記稿』
新修渋谷区史(上巻)』

金王八幡社

(渋谷)

地名の元になった渋谷氏は、坂東八平氏の秩父氏の流れで川崎重家を祖とする。その子の長男が重国で次男が源義朝に従った金王丸（土佐坊昌俊）となる。

澁谷八幡宮

本社祭神 應神天皇一座

社記に曰く、當社は高望王より五代の後裔、村岡五郎良文が曾孫、秩父別當武基の一子に、同十郎武

綱といへる英雄あり。寛治三年六月、清原武衡・同家衡が猛威を耀き、奥羽の間に勢を揮ひ、名譽を

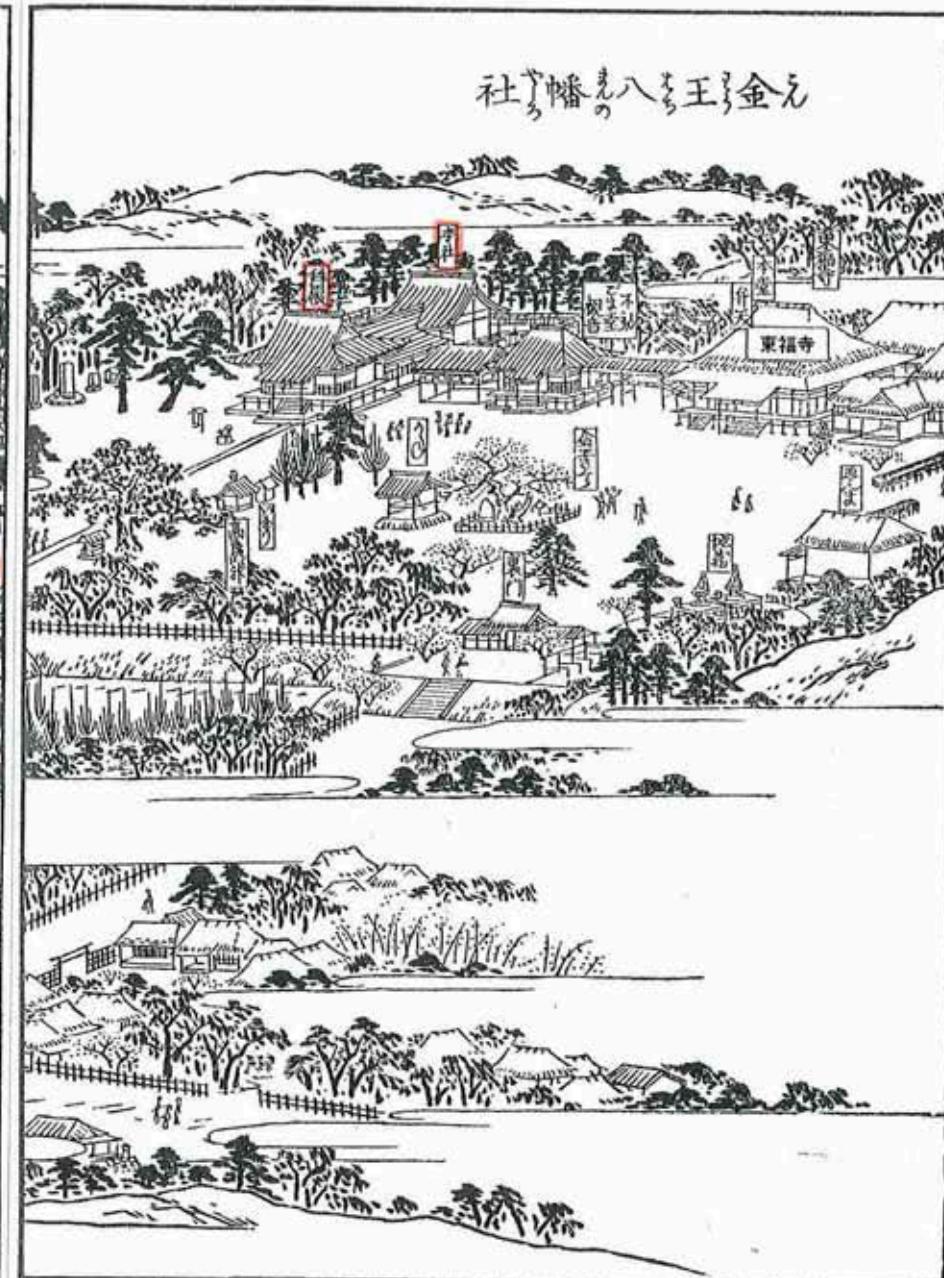
天下に輝かしぬ。故に將軍義家朝臣是を感じ、勅賞として其子六郎基家

河崎土佐守と云ふ由社記にみゆに武藏國谷盛莊

地に當社を營建し、金王塵迄代々氏神と稱し、尊重嚴なりけるとぞ。
を賜ふ。谷盛一に矢張に作る。此庄に七郷ありしとなり。所謂澁谷
谷・赤坂・代々木・麻布・飯倉・一本・今井等是なりと云ふ。
依て基家勝地を擇び、同年正月始て采邑の

金王塵影堂

同所向側、叢林の中にあり。



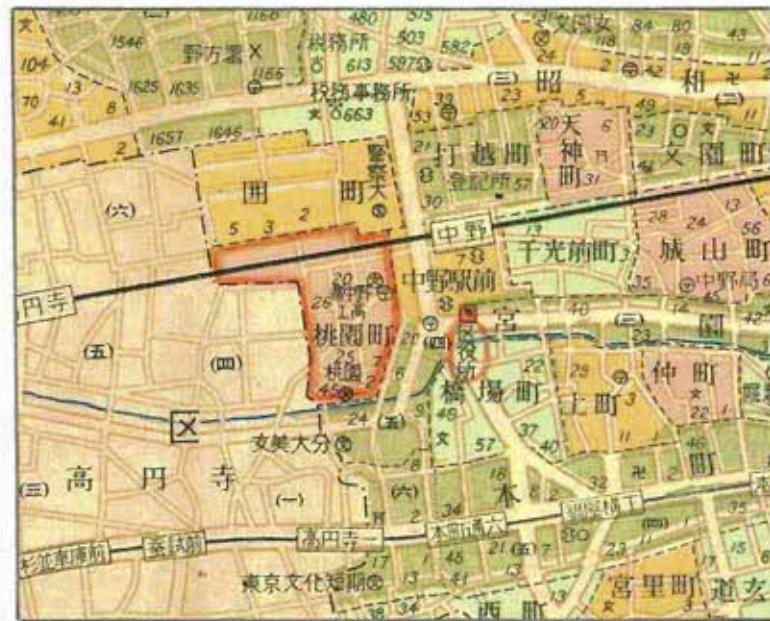
II 将軍吉宗が植えた桃の名所 II



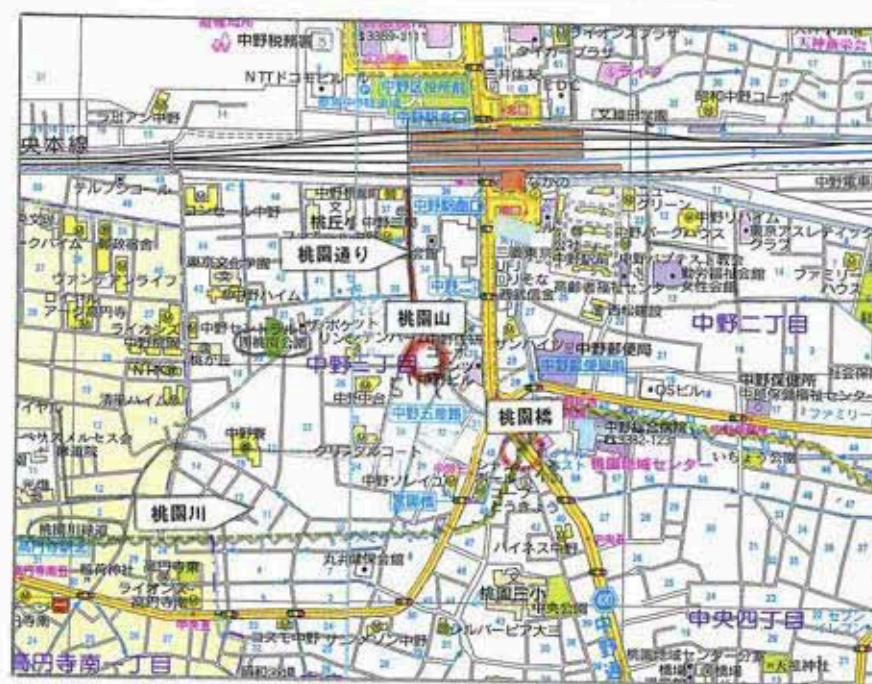
桃園川に架かる橋で、左奥が桃園の丘。



桃園の丘があった所で右の坂の上がお立場だった所。



昭和30年の頃の地図。まだ「桃園町」の名が残っている。昭和41年中野三丁目となった。



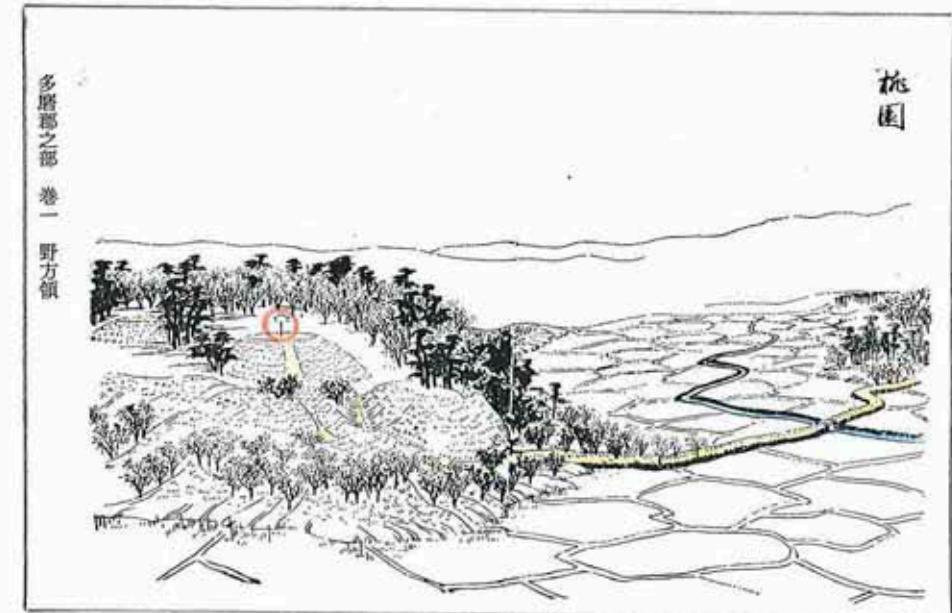


『新編武藏風土記稿』にある絵。

享保年間（1716～1736）8代将軍吉宗が桃の木を植え江戸の花見の名所となった。当時茶屋が11軒あったという。



「桃園」の地名が残る桃園通りと寺の山号の名。この通りの突き当たりに昔の中野駅があった。



『武藏名勝図会』にある絵。

《杉並区》

69 大宮八幡宮

杉並区大宮 二の三の一

〔奥州合戦の要の神社で源頼義・義家・頼朝も参拝した〕



現在の社殿は、昭和46年鎮座九百年の事業で改修されたもので江戸時代の元禄10年（1697）家康の次男秀康の側室清涼院（いまの結婚式場の名）が江戸城の鎮護の為、東に向きを代えた。
創建当時の社殿は今の茶室の辺にあり鎌倉の方向の南に向いていた。

鞍掛けの松



源義家が馬の鞍を掛けたという松



今も絵の様に曲がっている。



上空から見た大宮八幡宮



大宮八幡宮

平安時代後期の康平6年（1063）前九年の役で勝利した源頼義が石清水八幡宮の分霊を勧請して創建した。その後、子の義家や源頼朝もここに参拝した。

大宮八幡宮
相傳ふ、當社は其先多田満仲の勧請なりといへり。後源頼義朝臣、奥州征伐出陣の時、種の靈瑞ありて、神像を感じし、又相州鶴が岡に等しく、神殿僧坊を重修ありて、信心最厚し。
に右大將頼朝卿、又相州鶴が岡に等しく、神殿僧坊を重修ありて、信心最厚し。



創業 天明元年
1781年今年
2014年

毎日

多摩

TOKYO

多摩総局

丁番地番号1の
1の24メソント
コカツ2番
042-527-5050
042-527-0051
八王子支局
042-556-1181
武藏野支局
042-51-2131
青梅通販部
042-22-2335
野田通販部
042-722-2408

購読・配達は
(毎日)

0120-468-012
広告・折込は
毎日広告社
多摩武蔵子支社
042-6121
毎日新聞
03-3208-8011



東京写真 2014

駄菓子屋

鬼子母神（豊島区雑司ヶ谷）の境内にたたずむ駄菓子屋「上川口屋」。ポン菓子をつるしたひさしの奥で、13代目店主の内山雅代さん（73）と、2匹の老猫が、のんびり店番をしている。

創業は1781年。もともとはアメ屋を営んでいたが、加賀藩の殿様が鬼子母神をお参りする際、土産物店に指定されたことで、この地に店を出したとか。

本店舗は明治期以前に建てられ、店

の名物・あんこ玉を入れた柄の菓子箱は100年近く前から使っている。そして、内山さんも10歳のときに店番を始めて80年以上だった。

小説を握りしめた常連客は、やがて大人になり「おばちゃん、元気だった？」と子連れで、ひょっこり訪ねてくる。「成長を見届けられるのがうれしくてね」。そう言って、内山さんはほほ笑んだ。

【竹内良和】

創業天明元年（1781）の飴屋の「上川口屋」13代目といふ
内山雅代さんが店番をされている。都内で最古の駄菓子屋。



絵にある樹齢600年の大銀杏。



参道の入口



社殿は元禄13年（1700）の建立で、大正の地震や戦災にも耐え昭和51年に大改修された。フリーマーケットでにぎわっていた。



鬼子母神堂

II 安産・子育ての神様として知られている神社 II
豊島区雑司ヶ谷 三の十五の二十

《豊島区》
鬼子母神堂

安土桃山時代の天正6年（1578）の創建。

鬼子母神堂

鬼子母神は元はインドの母神で、仏教に取り込まれた女神。日蓮宗の守護神。

鬼子母神堂

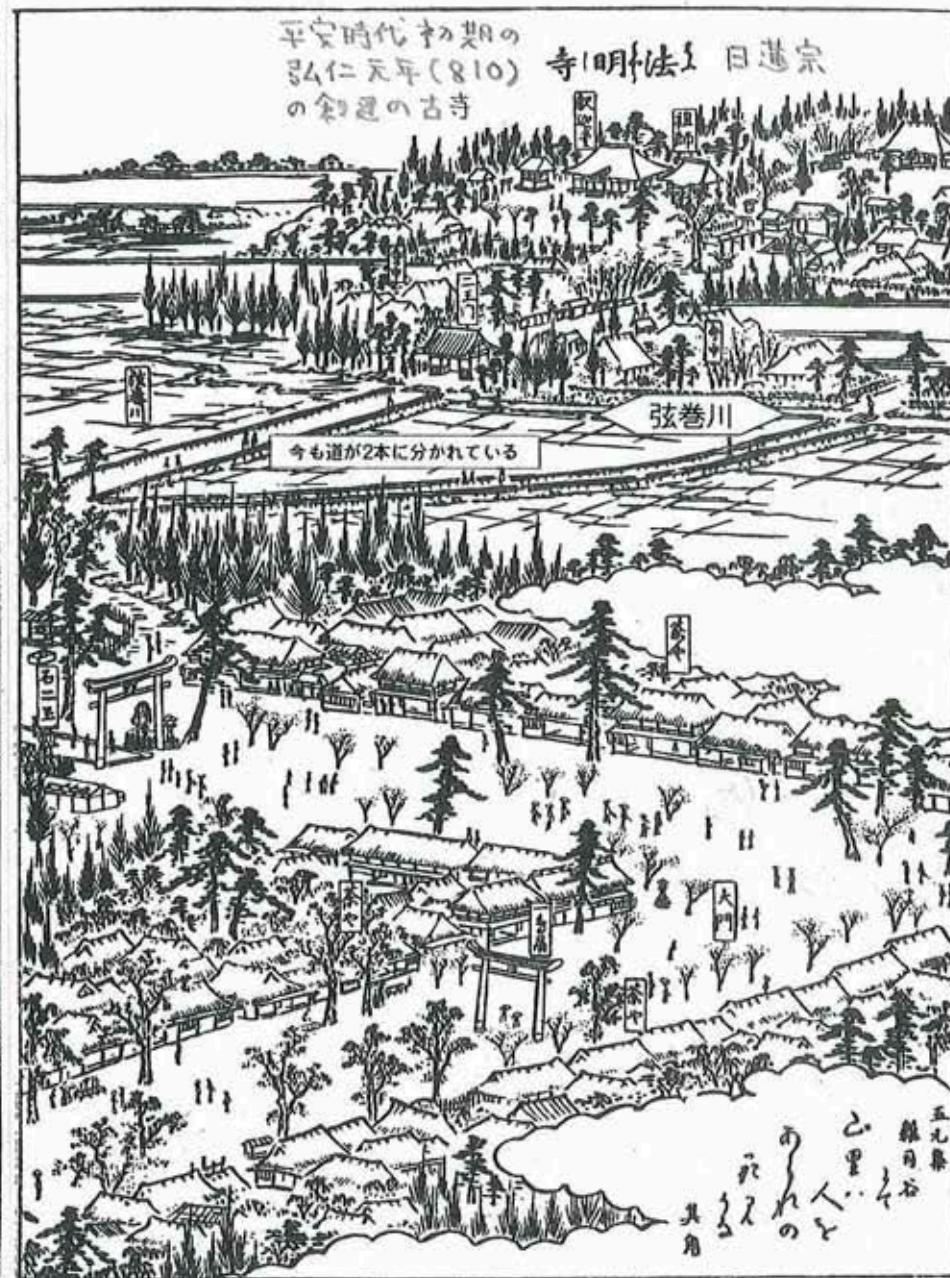
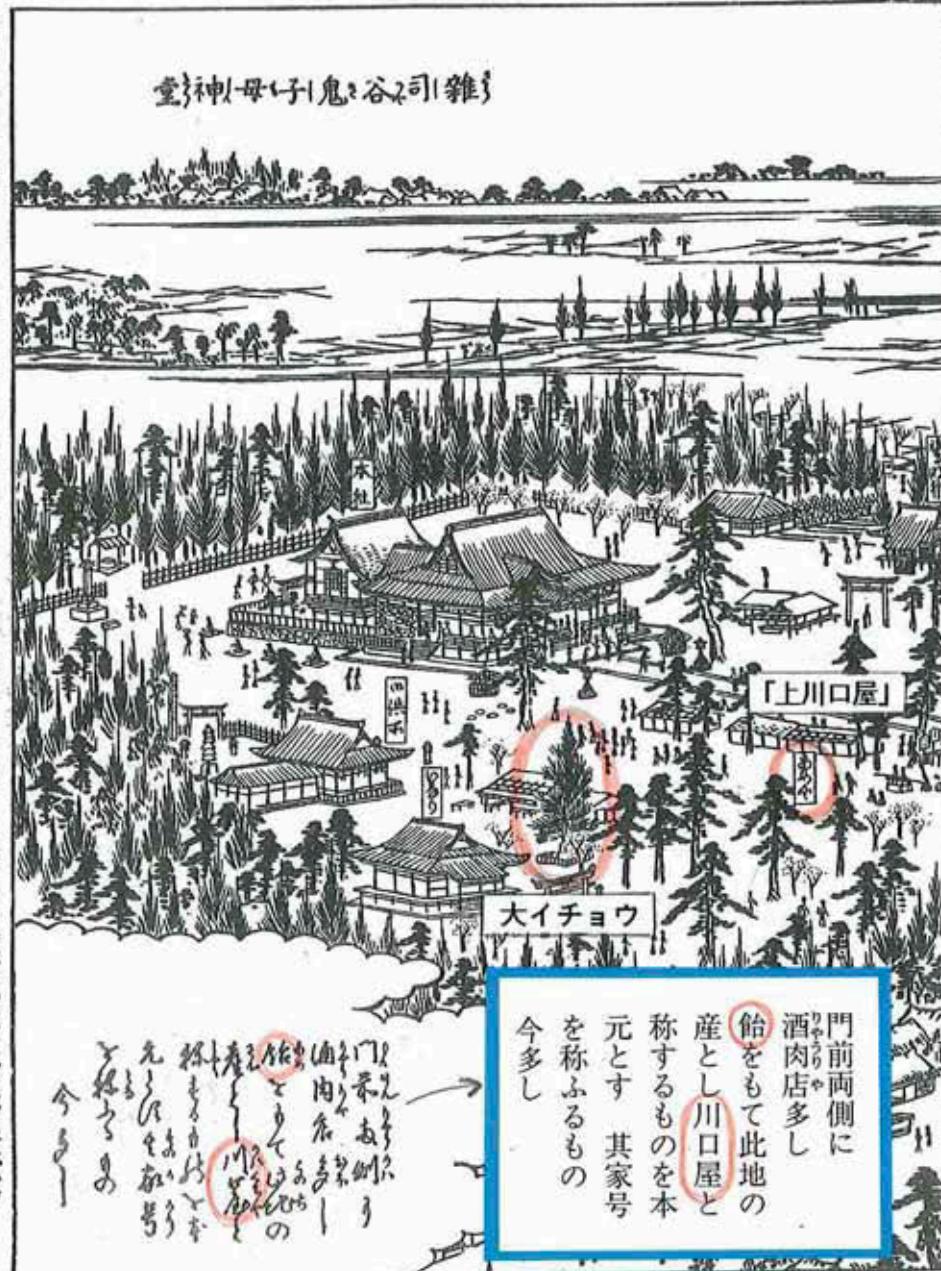
雜司谷にあり。

本殿鬼子母神銅像なり。

當寺は慶安三年庚寅實藏院相上人開基して、

諸願あやまたす協へ給ふが故に、常に

詣人絶えず、依て門前の左右には貢食店軒端を連ねたり。十月の會式には、殊更群集絡繹として織り如し。風車・麥藁細工の獅子・川口屋の飴を此地の名産とす。

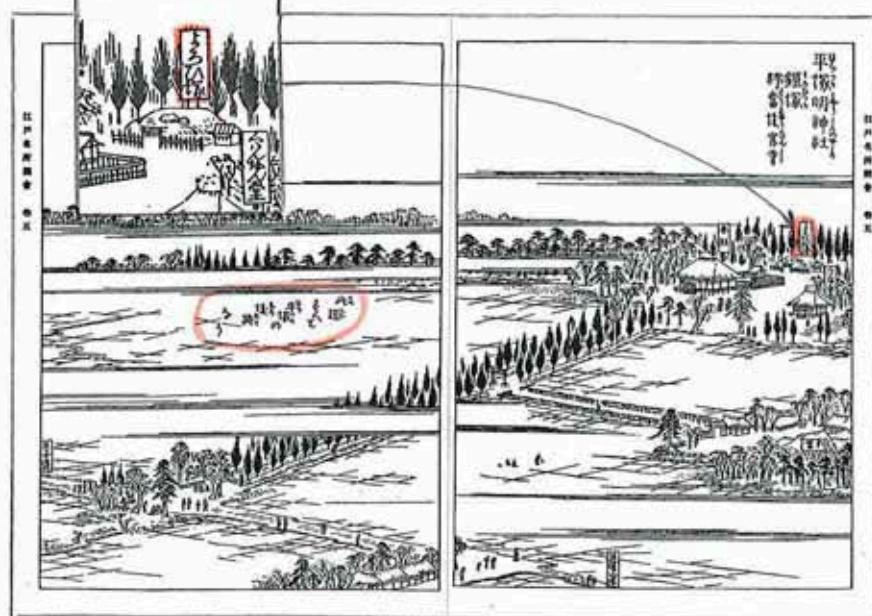


71 平塚城跡

北区西ヶ原 一の三十四の八

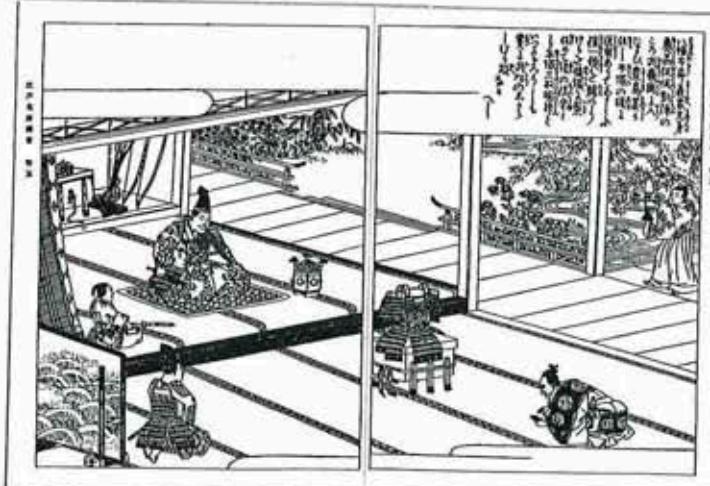


平塚神社は平安時代後期の元永年間（1118～1120）の創建。奥州合戦の際の源義家・義綱兄弟の武功をたたえて豊島氏がその後三男の義光を加えて祀った三所明神。『新編武藏風土記稿』



左側に館があった。右奥の社の裏に「よろい塚」がある。

豊島氏は秩父氏の流れで、平安時代後期から武藏国に住み平塚城を本拠地として鎌倉時代後期に石神井城や練馬城を築いた。滅亡後も江戸時代まで続いた。石神井川流域を支配していた一族。桓武平氏。



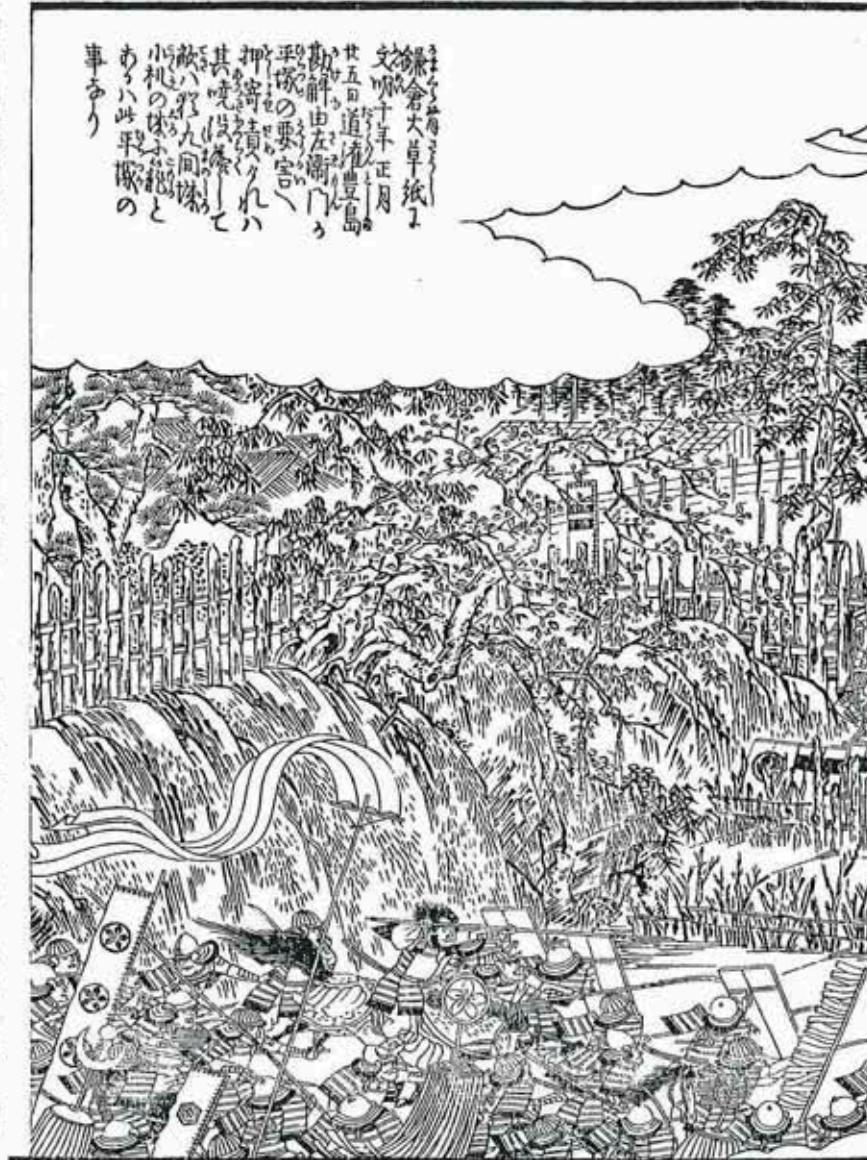
源義家が後三年合戦のあと寛治元年（1087）逗留のお礼に豊島近義に甲冑を授けている絵。



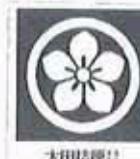
平塚城の戦い

室町時代後期の文明10年（1478）の合戦。
太田道灌に攻められ豊島氏は滅びた。

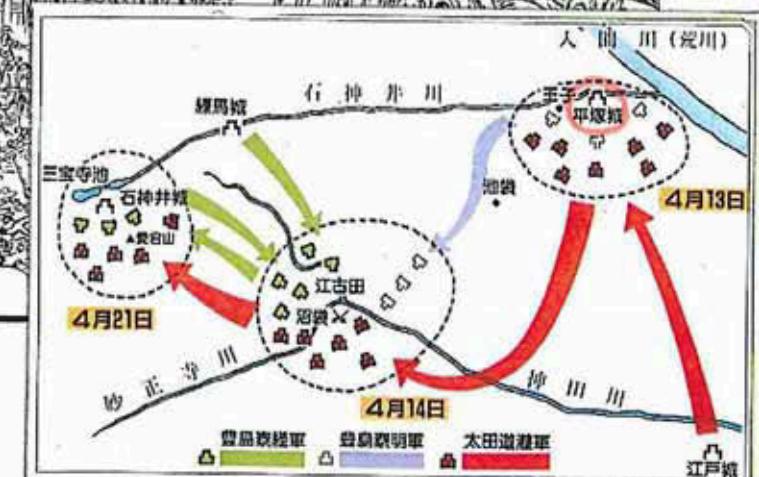
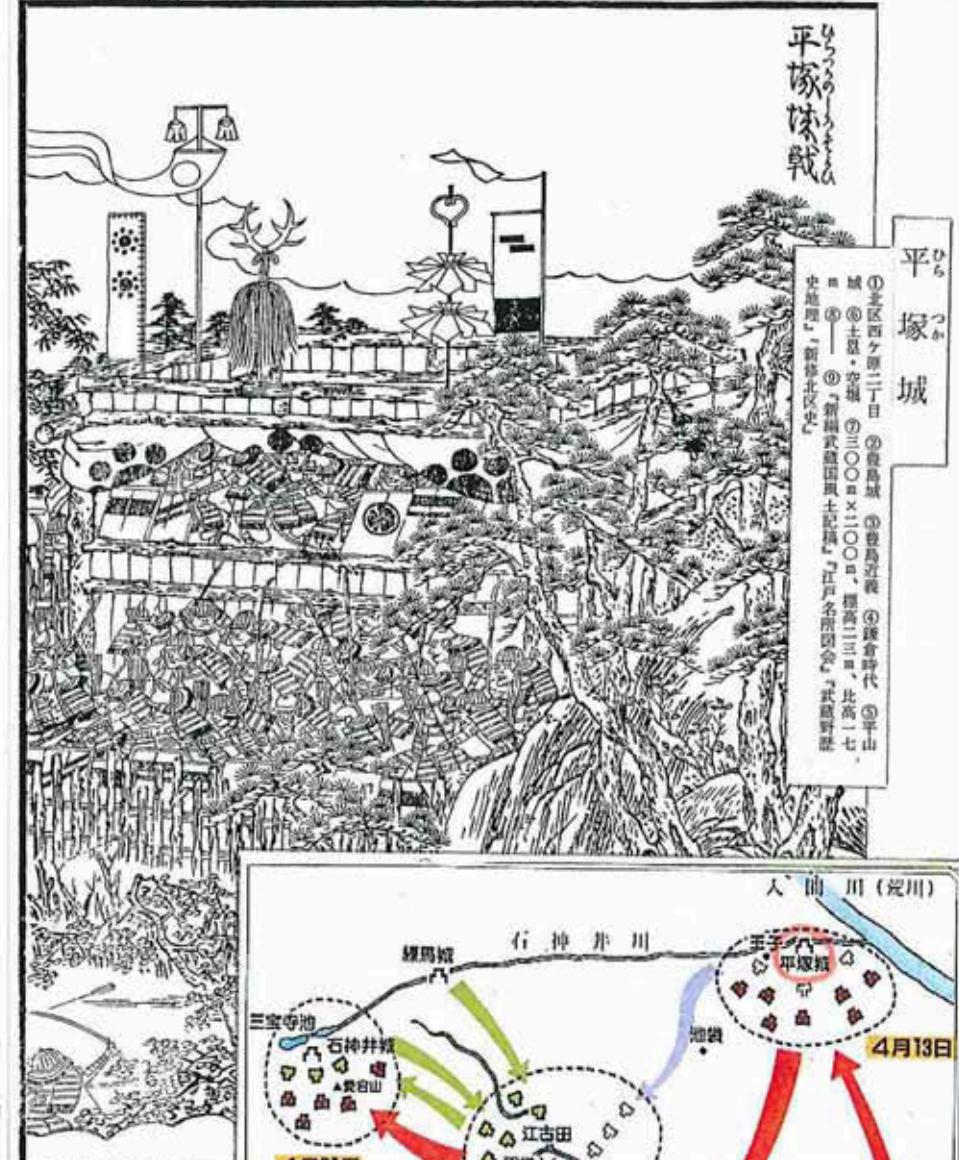
平塚城跡
平塚明神のあたりより、飛鳥山の邊迄をいふ。「鎌倉大草紙」に云く、文明九年四月十三日、道灌江戸より打つて出で、豊島平右衛門尉が平塚の城を取り巻き、城外を放火して歸りける處に、豊島兄の勘解由左衛門を頼みける間、石神井の城・練馬の兩城より出で攻め來りければ、太田道灌・上杉刑部少輔・千葉自胤以下、江古田沼袋と云ふ所に馳せ向ひ、合戦して、敵は豊島平右衛門尉を始として、板橋・赤坂以下百五十人討死す。



攻める道灌軍。桔梗紋が見える。

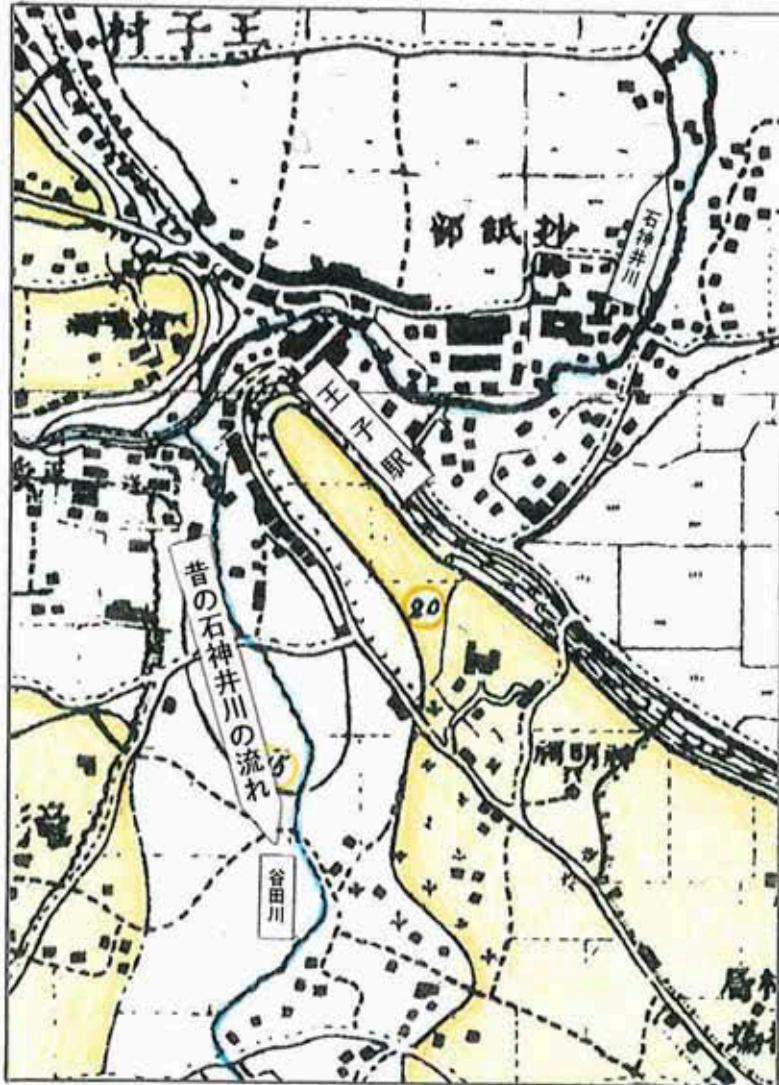


太田桔梗紋



江古田原沼袋の合戦図 『中野区立歴史民俗資料館』

II江戸時代から続く桜の名所 II



明治前期の頃の様子と地形。



王子駅方面を見る。



桜の名所で昭和41年北区の公園として整備された。標高27mの丘。



平成10年3つの博物館が出来た。



飛鳥山周辺図。『北区観光ガイドブック』

飛鳥山全図

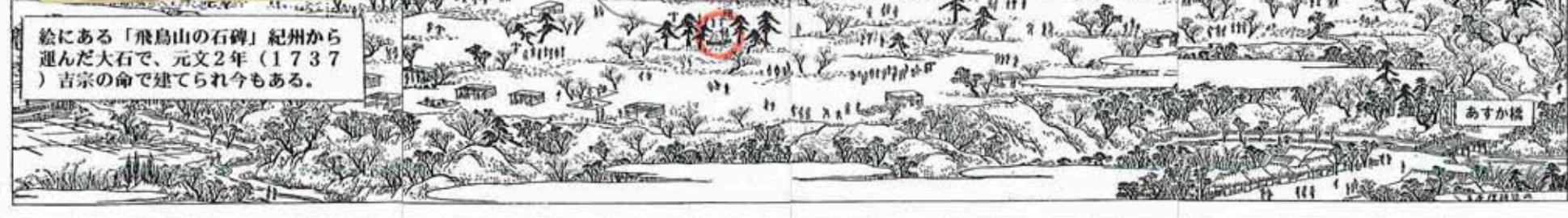
中世の頃は豊島氏の領地で、鎌倉時代後期の元亨年間（1321～1324）紀州の飛鳥明神の分霊を祀ったことでこの名が付いた。享保8年（1723）8代将軍吉宗の命で桜を植え桜の名所となった。

飛鳥山
全圖
古
本
圖
書

江戸本圖書



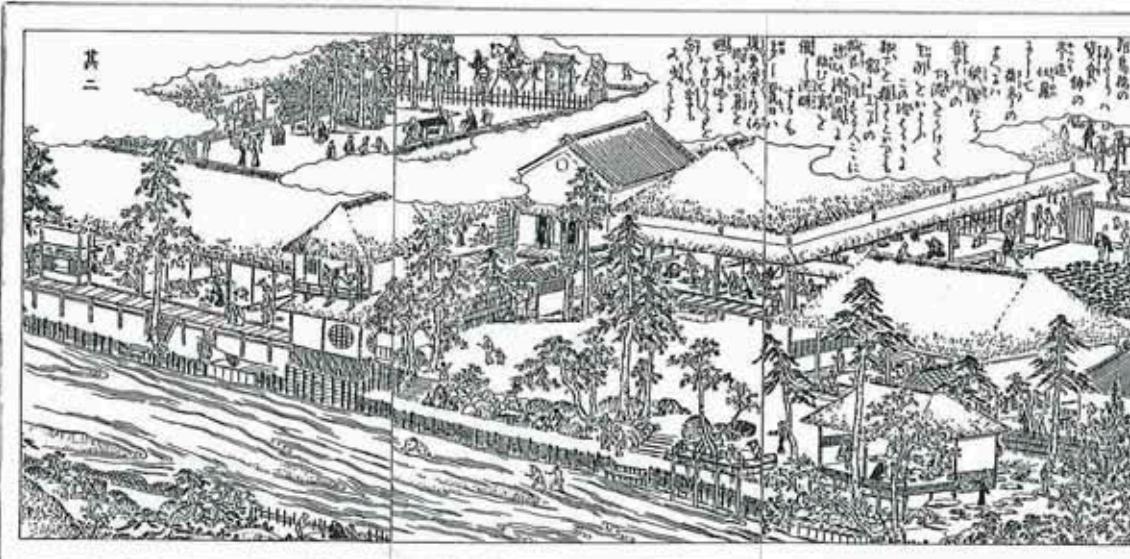
絵にある「飛鳥山の石碑」紀州から運んだ大石で、元文2年（1737）吉宗の命で建てられ今もある。



飛鳥山

數萬歩に越えたる芝生の丘山にして、台命によつて櫻樹數千株を植ゑさせらる。

夏涼冬雪、眺あるの勝地なり。



川沿いに料理屋が並んでいた。扇屋・海老屋が有名で「扇屋」は慶安元年（1648）創業の老舗で今でも卵焼を売っている。



右側が料理屋があった所。手前が王子駅